

「足関節骨折術後症例におけるヒラメ筋の構造と筋力および歩行機能との関係」

当院では以下の臨床研究を行なっております。

【研究課題】

足関節骨折術後症例におけるヒラメ筋の構造と筋力および歩行機能との関係

【研究の背景と目的】

足関節骨折術後は、長期間経過しても歩行機能が低下しています。歩行機能を低下させる原因として、足首の筋力が弱くなることが挙げられています。しかし、筋力低下の原因は明らかになっていません。我々は、筋の生理的断面積が大きく、筋力発揮に優れ、抗重力筋であるヒラメ筋に着目しています。筋の量的および質的变化により筋力が低下し、歩行機能が低下すると考えられますが、これらの因果関係は明らかになっていません。

本調査の目的は、足関節骨折術後症例におけるヒラメ筋の構造と筋力および歩行機能との関係を明らかにし、歩行速度の改善に役立てることです。

【研究の期間】

2022年7月1日～2028年7月1日

【研究対象】

- ・当院に外来通院可能であり、足関節骨折の診断で観血的整復内固定術を受けられた方
- ・全荷重が許可された術後3ヶ月と5ヶ月の方

【研究の方法】

当院のリハビリテーションでは、術後3ヶ月、5ヶ月に機能測定を行っています。本研究では、その測定結果を部分的に2次利用し、研究を行います。

【利用する情報】

- ・基本情報（年齢、性別、身長、体重、BMI、利き脚）
- ・医学的情報（診断名、既往歴、手術記録、治療経過）
- ・足関節可動域
- ・足関節筋力
- ・超音波画像（ヒラメ筋の筋厚と羽状角、筋輝度、弾性率）
- ・歩行パラメータ
（歩行時の底背屈可動範囲、動的スティフネス、歩幅、歩行率、歩行速度、歩行予備能）
- ・疼痛

【予想される利益・不利益】

利益：理学療法でヒラメ筋の筋構造を改善することで、歩行機能が改善する可能性がある。

不利益：筋力測定にともなう筋肉痛が生じる可能性があります。筋力測定では、プレテストを行い徐々に力を入れることでリスクを予防します。また、歩行パラメータの測定では、理学療法士がつきそうことで転倒を予防します。

【個人情報の取り扱いについて】

本研究の成果を、学術目的のため学会や論文で公表する際には、個人情報を厳重に守り、個人が特定されない形で使用します。

【研究協力の自由について】

研究への協力は自由意志であり、拒否された場合でも不利益はありません。協力を希望されない場合は、お手数をおかけしますが、ご連絡をお願い致します。

【利益相反について】

本研究に開示すべき利益相反はありません。

【研究責任者連絡先】

総合病院土浦協同病院

リハビリテーション部 宮阪隼人

電話 029-830-3711 (代表)